

ハーフ&ハーフがお勧めです

渡辺圭一郎

奨励者紹介〔わたなべ・けいいちろう〕

日本キリスト教団 香里ヶ丘教会 牧師

兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることになります。わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

(コリントの信徒への手紙一 3章 1-9節)

1) ハーフ&ハーフ

皆さんは、ピザは好きでしょうか？我が家は共働きで、しかも二人の子どもがいます。どうしても晩御飯を作る余力がない時には、ピザをとることがあります。ドミノ・ピザとか、シカゴ・ピザ、ピザーラなどの宅配ピザです。30年ほど前、私が小学生の頃に徐々に日本で普及していったように思います。昔も今も、宅配ピザは、少し値段は高いですが、家まで持ってきてもらえるので大変助かりますね。

ただ難しいのはどのメニューを選ぶかです。1枚のピザでも結構値段が高いため、どのピザを選ぶのかは、厳正な話し合いが必要となります。長兄は照り焼きチキンが良いと言い、弟はベーコンのやつがいいと言う。私はシーフードが好きで、妻はポテマヨ系が好きです。宅配ピザの初期は、1枚のピザは1種類だったのですが、今の時代にありがたいのが「ハーフ&ハーフ」です。この「ハーフ&ハーフ」なるものが宅配ピザで発売されたときは、とても画期的だなあと思いました。

ハーフ&ハーフですと、丸い1枚のピザの半分は「照り焼きチキン」もう半分は「シーフード」のように、1枚で2種類の味が楽しめるのです。2枚のピザを頼めば、ハーフ&ハーフにすれば4種類の味が楽しめることになります。どうしても1枚のピザですと同じ味なので飽きてしまいますが、このハーフ&ハーフというシステムが生まれてから、いろいろな種類の味が楽しめるようになって、私自身はとっても感謝しているのです。今では「クワトロ」と呼ばれる、1枚のピザで4種類の味が食べられるピザも出てきていますが、自分の好きなピザだけを選ぶ「ハーフ&ハーフ」はお勧めです。どうぞ皆さんピザを注文するときにはぜひ試してください。そこで今日は「ハーフ&ハーフがお勧めです」という題にしました。

2) 成長させてくださるのは神です

しかし勿論、私はピザの宣伝をしにきたわけではありません。次に、私たちの人生の味わい方についてお話しをしていきたいと思います。今日のこの奨励の流れでまず結論から申しますと、私たちの人生も「ハーフ&ハーフ」で味わうのがお勧めです。人生も2種類の味を楽しんだ方が、味わい深いのではないかと思います。私自身がキリスト教を通してその味わい深さを感じてきましたので、今日は新約聖書の『コリントの信徒への手紙』を通して、皆さんと「ハーフ&ハーフ」のよさをお伝えさせてもらえればと思っています。

今日の聖書箇所でとりあげたのはパウロという人の手紙の一部で、コリントにある教会の人たちに向けて書かれたお手紙です。どのようなことが語られていたかでしょうか。もう一度その一部分を読みたいと思います。

ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にはすぎないではありませんか。5 アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

パウロは、コリントの人たちを「植物」にたとえていますね。そして、パウロ自身はその「植物」(コリントの人たち)が成長するために世話をした一人であると語っています。まず、植物が育つためにはその「種」をまく人がいなければならない。私は「種」を蒔くような役割をした人間だと言うのですね。でも「種」を蒔いただけではだめで、時々水をやる人も必要ですね。アポロさんと言う人も、初期のキリスト教会にいたのですが、アポロさんは「水やり」をするような人だったと言います。しかし、成長させてくださったのは「神」なのだということを、かなり強めに言っているのですね。

3) 植物のたとえ

この実感は小学生の時に、朝顔を育てたことのある人は、何となくわかることだと思います。小学生1年生の子どもたちは、四角いプラスチックの容器の土の中に、朝顔の種を入れます。そして次に水やりをします。その後は、時々、気にかけて水やりをやるだけでね。お庭にある地植えの朝顔でしたら、基本ほったらかしで大丈夫です。そうするうちに、花が咲き、種ができますね。

あの朝顔のかわいらしい花は、誰が咲かせたのだろうと聞かれたら、どうでしょう。確かに「種」を蒔く人がいなければ咲かないと言えます。水をやる人がいなければ、途中で枯れて咲かなかったと言えます。でも、じゃあ、種を蒔いた人や、水をあげた人が、「この朝顔を咲かせたのは全部俺の努力だ、実力だ」と言われると、ちょっとそれは違うんじゃないか、言い過ぎなんじゃないか?という気がしますね。実は、朝顔を育てた皆さんも、うすうす知っているように、基本「ほったらかし」で花は咲きます。時々、担任の先生がそっと心配して水やりをやってりますが、自然の植物は基本ほったらかしです。そもそも朝顔の「種」には、花を咲かせる命が秘められてありますし、土や水や栄養や日光のあたる良い環境であれば、最初に「種」を蒔く人と、時々「水」をあげる人がいれば、あとはほったらかしでも、きれいな花を咲かせることができます。

このことを昔の人はよく知っていたのでしょね。この手紙を書いたパウロさんは、これは「あなた」自身のことだよと語り掛けているように思います。確かに私たちは自分の力でここまで生きてきたと言えます。種を植えるような働きかけをしてきた、水やりをやる努力もしてきた。確かにあなたが自分の手でやってきたことで、今のあなたがあるのは事実です。でも、私

は自分の力だけでここまで生きてきたというのは本当ですか？とパウロは言いたいのです。朝顔の花同様、それは半分正しくて、半分は言い過ぎではないだろうか。

ここにいる皆さん、生まれてまだ間もない時に、自分でミルクを買ってきた飲んだ人はいますか？赤ちゃんの時に濡れて汚れた押し目を自分で手洗いたと言う人もいないでしょう。自分で食べる食材は自分の手で全部調達したという人もいないでしょう。ここまでくる中で誰の世話にもならなかったし、誰とも関わらずに生きてきたという人もいない。つまり「自分の力で生きてきた」というのはある面半分正しいのですが、半分はみんな誰かのお世話になって生きてきたし、神さまが与えてくれたとしか言えない、素敵な摂理の中で私たちは成長してきたのですね。

4) 人生もハーフ&ハーフ

今の時代を生きる私たちは、大人になればなるほど何となく自分の力で生きてきたような錯覚を抱きます。そういう考え方は半分正しい……でも半分は誰かに（何ものかに）生かされてきたというのが、本当なのです。時々、宗教というのは非現実的な教えだと思われがちなのですが、そうではないですよ。目に見えない、本当のことに、もう一度気づかせてくれるのが宗教です。では、それが半分「自分は生きてきたようで、生かされてきた」です。それに気づいた人は、どういう心境になるのでしょうか。

それは今を生きていることへの「感謝」に繋がるんです。今を生きていることそのものを「喜べる」ようになるんです。そしていろいろな悩みやしんどさから、ほんのちょっと距離を取れたり、手放すことができるんです。私はこの何気ない今の命を「喜べること」「感謝できること」が、週に1度くらいはあった方がいいのではないかと思います。たった1度の人生ですから、本当のことに気づいていたほうがいいし、その方が自分も人も幸せにできると思うのです。人生は「自分の力が半分」「神様の力が半分」そうやってハーフ&ハーフで味わうのが私のおすすめです。